

水の大切さ

薩摩川内市立平成中学校 三年 税所 優月

突然、学校の水道が使えなくなった。その日は学校で四時間目に避難訓練があった。避難訓練が終わり給食の時間になった。そして給食の時間が終わり水道におぼんを洗いに行こうと教室を出た。すると何人かの友達が水道の前で騒がしくしていることに気がついた。どうしたのかと思い私も水道に近づいてみると、まるで麦茶のような茶色い水が水道から流れ出ていたのだ。私はとても驚いた。平成中学校ができてまだ三十三年ほどだがはじめての出来事だったようだ。友達との間でとりあえず水道の水を使うのはやめたほうがいいという話になった。私たち生徒が動揺している中しばらくして水道の使用を避けるようにとの校内放送が学校中に響いた。

その日から手洗いなどはできるもののうがいや水道水を飲むことができなくなった。私はこの出来事によって水が使えないことの苦

労と大変さを体験した。水筒を忘れた日は最悪だった。また、歯磨き用の水も必要となった。飲むための水筒と、うがいするための水筒の二つ持って来ないといけなくなった。学校はすぐに業者に連絡して、タンクの清掃を頼んでいたが、水質検査の詳しい結果がでるまでは口に入れることができず、結局十九日から二十六日までの八日間使用することができなくなった。

水がないと、人間は生きることができない。そんなことを聞いたことがある。人間の体の六十パーセントから七十パーセントは水分でできているため、水分をしつかりとらないと体調不良の原因になってしまう。

私は小学校五年生するとき、運動会の練習中に熱中症が原因で倒れたことがある。その日は、体育館で校歌の練習をしていた。外は晴れていたけれど、猛暑だったため体育館での練習になったようだった。コロナ禍だったため、マスクをしたまま歌っていた。倒れた時

の記憶は、途中までは覚えている。気持ちが悪かったり、体調の変化は特になかったのに突然目の前が暗くなって、目がぐわんぐわんなり、そこから記憶がない。次に目を覚ましたときは倒れた後で、たくさんの先生たちに囲まれていた。打ったところではなく、頭の中のほうがものすごく痛くて、息苦しかった。あとから友だちに聞くと、突然、後ろ向きに頭から倒れたようで、ものすごく大きな音がしたらしい。なにか物を落としたようなばーんという音でびっくりしたそうだ。迎えにきた母にも、とても心配された。

たくさん汗をかいたことと、水が不足していたことが原因で倒れたのではないかと病院の先生に言われた。病院で点滴をしてもらい、やっと普通に話せるようになった。

私はそのとき、水って体にとって大切なのだなと改めて思った。当たり前のことだけれど、水分が不足していると体調不良を起こしやすいようになってしまふ。反対に水分補給をしつ

かり行っているると熱中症などの体調不良を防ぐことができる。私はその日から水分補給をしっかり行うよう意識するようになったとともに水の大切さを実感した。二度とあんな苦しい思いはしたくないと強く思った。

日々私たちが生活している中で、水はいろいろなことに必要になってくる。手洗いうがいをするとき、料理をするとき、お風呂に入るとき、洗濯をするとき、お皿を洗うとき、本当に常にいるのだ。私たちが毎日食べているお米や野菜も生長するのに水が必要である。水がなければ私たちに届くことはなくなってしまう。

私は、水が使えるということとは、当たり前のように思っていたけれど、今回のことでそうではないし、蛇口をひねればきれいな水が出てくるのはとてもありがたいことなのだと思った。資源には限りがある。水ももちろんそうだ。私たちが大人になった未来にも今のきれいな水が続くようにしたいと私は思う。